

弘前城石垣修理

第5回 ～石垣修理の工程～

石垣は江戸時代に生きた先人たちの残した文化財であり、その築造には当時の技術の粋が生かされています。この石垣を修理する前には、その構造を記録に残すため、発掘調査を行う必要があります。平成24年度の弘前城跡本丸石垣修理委員会において、石垣の具体的な修理範囲が確定したことを受けて、平成25年度から修理範囲の本丸平場（石垣上部）発掘調査に着手しています。平場の調査は平成27年度まで実施し、平成28年度以降は石垣の解体工事に併せて、石積み構造に係る発掘調査を同時進行で行う予定です。

石垣修理工事の期間は、平成26年度から平成35年度までの10年間を見込んでいます。現在、石垣修理範囲下の内濠の埋め立て工事を行っているところですが、これは天守曳屋（ひきや）や石垣解体の足場を設けるために実施しているものです。弘前城天守の曳屋は、今回の石垣修理範囲に天守台が含まれているため、石垣の解体に入る前に天守を移動する必要があることから実施されます。重要文化財に指定されている天守の曳屋を伴う石垣修理は、昭和以降全国で初の事例となります。

来年は、さくらまつり終了後の5月中旬から7月にかけて、本丸に曳屋工事用の足場やレールなどを設置します。8月中には天守をレールに乗せて、桜の木をかわしながら曳屋工事を進め、10月までに本丸中央部へ約70m移動する予定です。弘前城天守は、移設先で耐震補強などの処置を経た後に公開となります。

平成28年度には、いよいよ石垣修理に着手します。まず、修理範囲の石垣の全部を解体し、その後南側と北側の2工区に分けて積み直しを行う予定です。初めに南側から積み直し、天守台部分が完成し次第、天守を曳き戻しながら残りの石垣の積み直しを行います。石垣を積み直す際には、発掘調査で得られた情報を基に整備していく方針です。



△ 100年前の天守曳屋（大正4年撮影）…100年前には人力で天守を曳屋していますが、今回は機械を用います。

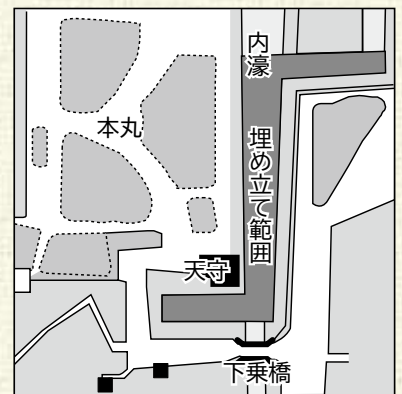
石垣修理の工程表（※平成27年度以降は予定）

工程		H25	H26	H27	H28	～	H35
発掘調査	平場	→					
	石積み構造				→		
石垣修理工事	内濠埋め立て		→				
	天守曳屋			→			
	石垣解体				→		
	石垣積み直し					→	
	天守曳き戻し					→	

▽平成26年内濠埋め立て範囲図…平成27年のさくらまつりでは、埋め立てた内濠から天守を見上げ、また石垣を間近で見学できる機会を設ける予定。



◁天守曳屋工事想定図…天守は本丸中央部へ約70m移動します（予定）。平成27年のさくらまつりまでは、現在の位置にある天守を見ることができます。また、曳屋工事中も本丸へは入場できるようになります。



※弘前城本丸石垣修理事業について、詳しくは下記 URL をご覧下さい。

<http://www.city.hirosaki.aomori.jp/kanko/shisetsu/park/ishigaki.html>

■問い合わせ先 公園緑地課弘前城整備活用推進室（弘前公園緑の相談所内、☎33・8739）